

●トーキングカード

親指のつめでプラ板を上から下に引っかきます。すると、「おめでとう」と箱から聞こえます。

厚さ0.3mm, 幅5mm, 長さ300mmの透明塩ビ板にカッターナイフで溝をつけ、紙コップに塩ビ板の端を貼り付けて、同様のもの（「おしゃべりコップChattering Cup」）を作っていました。

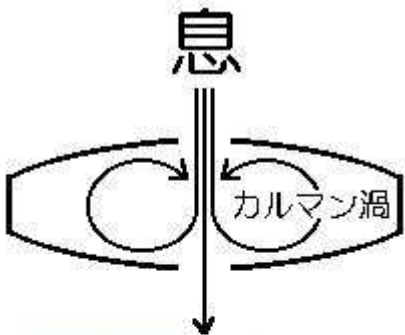
◆なぜ音が聞こえるの？

プラ板に秘密があります。プラ板の片面に、出したい音に対応した溝がぎっしりつけてあります。これをつめで引っかくと音が出るのです。今はCD全盛の時代ですが、レコードフォノトグラフ（Phonautograph）発明家シャルル・クロスのフォノグラフ（Phonograph）の溝に目に見えない凹凸がつけてあり、それをレコード針で引っかいて音を出しているのと似ています。レコードではアンプなどで音を増幅（大きくすること）しますが、トーキングカードは箱の部分で共鳴させて大きくしています。クラシックギターなどの音を大きくする箱（ギターではボディーと言います）と同じようなはたらきです。

●懐かし玩具の「ぱたぱた」を透明アクリルで手品のような面白い見せ方。

●フエガムもどき笛

コリスのフエガムには何と、ガムを粉にする技術、粉ガムをフエの形に成型する技術、2つの部品を貼り合わす技術、の3つの特許があるそうです。フエが鳴るのは図のように、空気の流れが穴の両側などにカルマン渦を連続して生じ（カルマン渦列）、それが振動を起こすため。もちろん息を吸っても音はなりません。



約5mmの間隔を開けてビニルテープで空気もれないようにしっかりとめる。



家で懸垂服を掛けてもいい

